

ブルーリボン

朗読者 今村 敦子

5 皆さんは、ブルーリボン運動という言葉を目にしたことがありますか？これは、ブルーリボンの青いバッジを胸につけ、北朝鮮による日本人拉致問題の被害者が一日も早く祖国日本に帰国できることを願う運動です。「私たちは拉致問題に深い関心を持っていますよ、支援していますよ」と意思表示し、周りの人々にアピールするので

10 す。

ブルーの色は、日本と北朝鮮を隔てる「日本海の青い海」と、被害者と家族を結ぶ「青い空」をイメージしています。

15 「北朝鮮による拉致問題なんて遠い昔の話では？」それに国と国に関わる国際問題、そんな問題に「一市民である私たち一人一人が出来ることなんか無い。」「政府の代表に任せるしかない」思う人も居るかも知れません。でも、そんなことはありません。一人ひとりで出来ることはいくつもあります。このブルーリボンを身に付けることもその一つです。

20 毎年12月10日から16日までは「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です。福岡市でも、この啓発週間を中心に講演会やパネル展を開催しています。こうした拉致問題に関する講演会やパネル展に行ったり、街頭で出会った署名活動に協力したりすることも、私たちにできることです。

政府が認定している拉致被害者は、17人ですが、それ以外にも「北朝鮮による拉致の可能性が排除できない人々」が数多くいるといわれています。警察庁の発表によるとその数は、全国に883人、福岡県警の発表では、22人、福岡市内に限っても5人の方が公表されています。

拉致問題は、人間の生命と安全を脅かす深刻な人権侵害です。決して過去の話ではありません。今も続く、私たちの身近で起きている問題です。「基本的人権にかかわる重大な人権侵害問題」だということをお忘れしないで、自分たち出来ることを今一度考えてみたいと思います。